

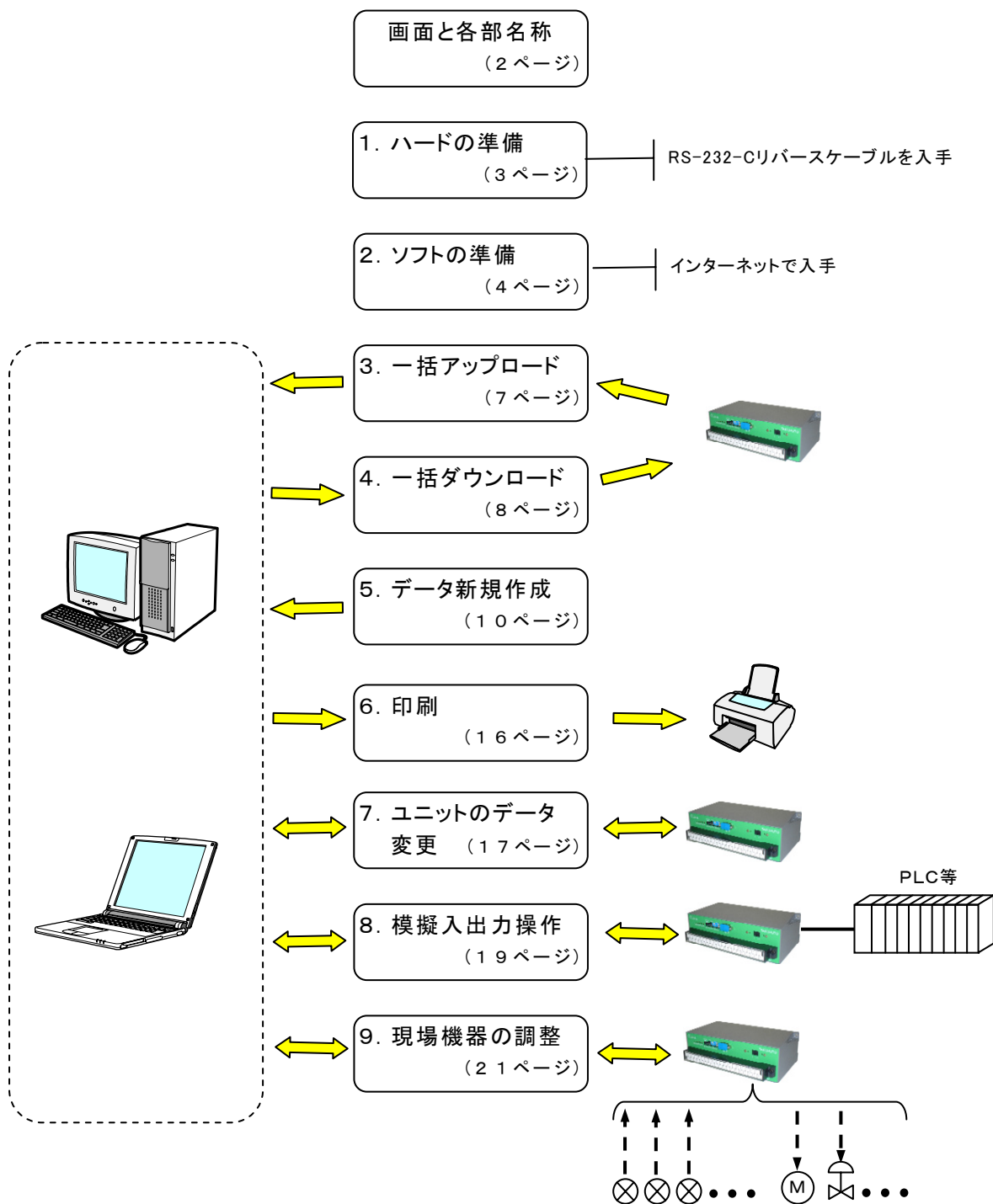
取扱説明書

CCツールソフト

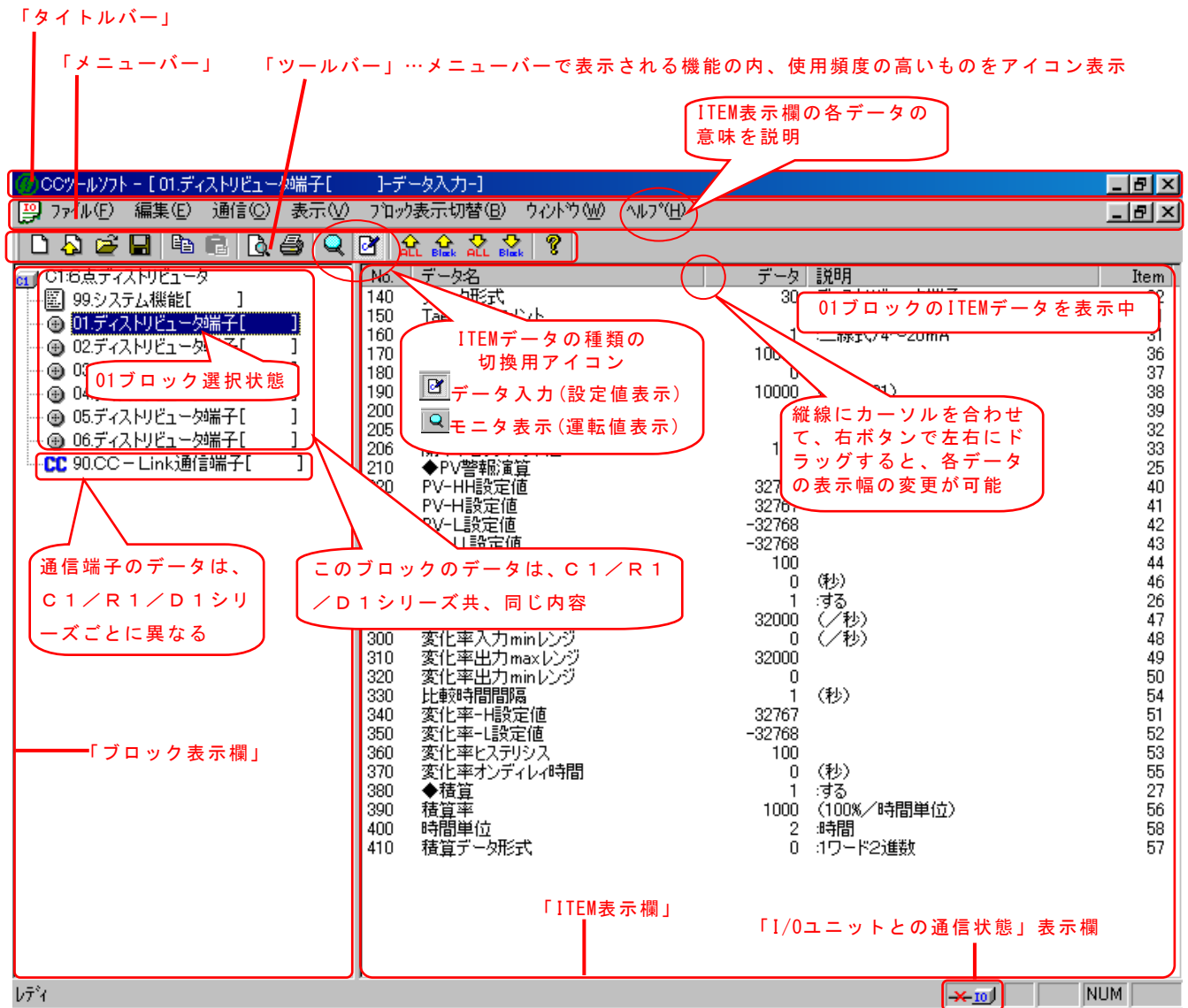
CC-SF

適用機種：C1シリーズ、R1シリーズ、D1シリーズ

目次



画面と各部名称

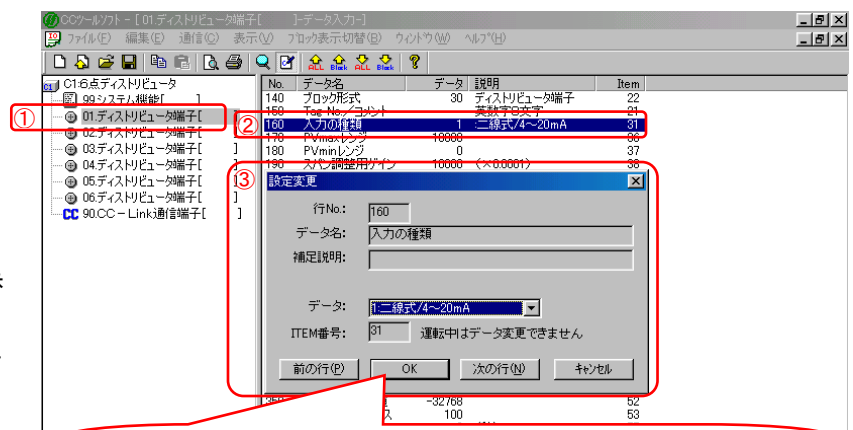


■ ITEMデータの変更方法

- ① ブロックを選択します。
- ② 「ITEMデータ」欄の変更したいデータの行を、ダブルクリックします。
- ③ 「設定変更」小画面が表示されます。

データ入力方法(下記の2種類があります)

- ・ 選択方式 : ☐ をクリックして表示データの中から選択
- ・ 直接入力方式 : 半角英数字をキーボードから入力

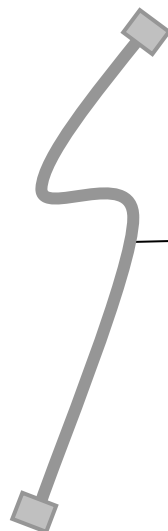
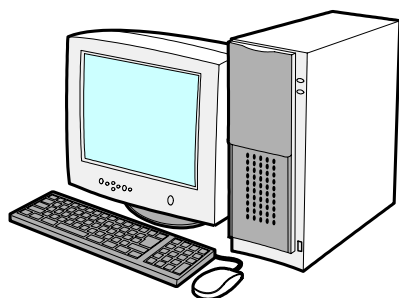


データ変更後、**OK** をクリックするとデータが書き換えられ、**OK** 以外のボタンを押すとデータは書き換えられない

1. ハードの準備

パソコン

- ・OS: Windows95/98/NT(SP4)/2000/XP
- ・RS-232-Cポート付



RS-232-Cケーブル:
D-SUB 9ピン クロスケーブル



リモートI/Oユニット
・C1シリーズ
・R1シリーズ
・D1シリーズ

(注) データ作成作業だけを行う場合は、RS-232-CケーブルとリモートI/Oユニットは不要です。

2. ソフトの準備

タケモトデンキのホームページからCCツールソフトをダウンロードし、パソコンに組み込みます。

タケモトデンキのホームページ:<http://www.takemotodenki.co.jp>

(注) 下記説明で「クリック」と表現している個所は、使用するパソコンの設定に対応してダブルクリックまたはシングルクリックになります。

■ ダウンロード

- ① [タケモトデンキトップページ] 画面の中の「ザ・計測」をクリックします。
- ② [計測(電力計測・プロセス計測・計装計測)] 画面の中の
「プロセス計装計測機器」「ご用の方はこちらから」をクリックします。
- ③ [プロセス・計装計測器] 画面の一覧の中の
「CC-LinkアナログI/OユニットC1シリーズ」の中の「仕様」をクリックします。
- ④ [リモートI/Oユニット開発コンセプト] 画面の中の「◆ツールソフトダウンロード」をクリックします。
- ⑤ [CC-Link用ツールソフトダウンロードユーザー登録] 画面でユーザー登録をしてから「送信」をクリックします。
- ⑥ [ファイルのダウンロード] 画面で「保存」をクリックします。
- ⑦ [名前をつけて保存] 画面…保存したいフォルダ(例えばマイドキュメント)を選択して「保存(S)」をクリックします。
- ⑧ ダウンロードを開始する。完了すると[ダウンロード完了]画面が表示されるので、「閉じる」をクリックします。

■ CCツールソフトの旧バージョンをアンインストール

パソコンにCCツールソフトの旧バージョンが組み込まれているときは、アンインストールして下さい。

Windows98の場合

- ① デスクトップ画面の[スタート] ボタンをクリックします。
- ② [設定(S)] を選択します。
- ③ [コントロールパネル(C)] を選択します。
- ④ [アプリケーションの追加と削除] を選択します。
([アプリケーションの追加と削除のプロパティ] 画面が表示されます)
- ⑤ [タケモトデンキCCツールソフト] を選択します。
- ⑦ [追加と削除] ボタンをクリックします。
- ⑧ CCツールソフトのアンインストール完了となります。

■パソコンに組込（インストール）

重要！ インストールする前に、パソコン内で動作しているすべてのソフトを終了させて下さい。
ウイルスチェックソフトも無効にして下さい。

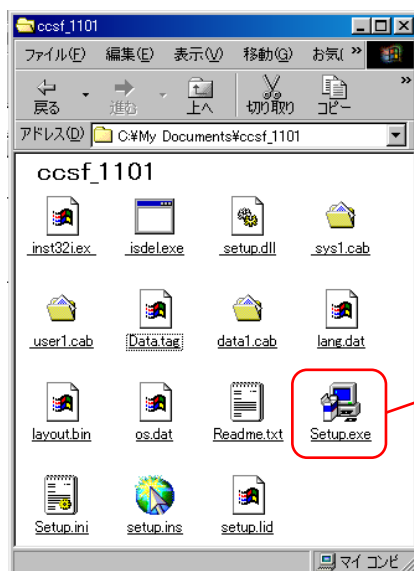
① CC ツールソフトを保存しておいたフォルダを開きます。

→② ファイル内の下記シンボルをクリックします。（ファイル名は CC ツールソフトのバージョンにより異なります）



→③ 自己解凍されて、新しいフォルダが自動的に作られます。（フォルダ名「ccsf_1101」など）

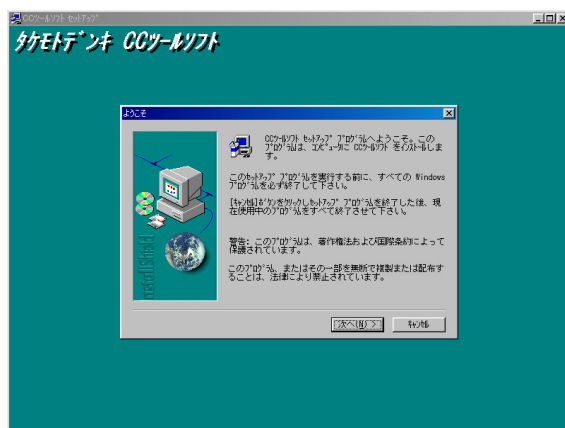
→④ フォルダを開きます。



⑤ これをクリック

→⑤ パソコンマークの Setup.exe をクリックすると、下記の「CC ツールソフトセットアップ」が表示されます。

→⑥ 画面の案内に従って操作を進めます。



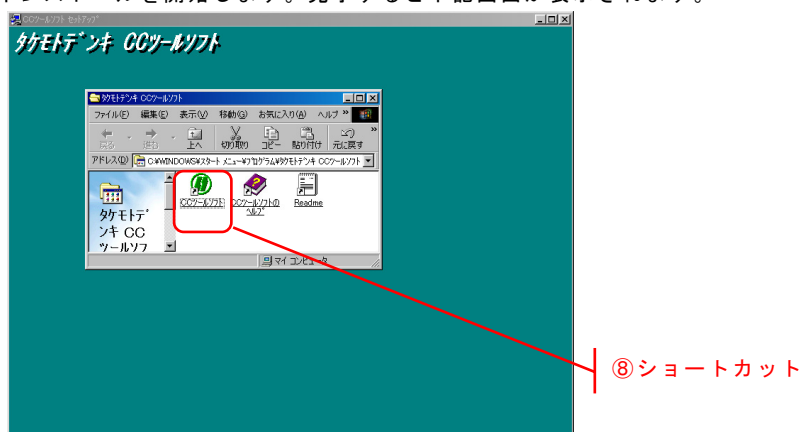
［ようこそ］画面の「次へ(n)>」をクリックします。

［製品ライセンス契約］画面の「はい(Y)」をクリックします。

［インストール先の選択］画面の「次へ(n)>」をクリックします。

［プログラムフォルダの選択］画面の「次へ(n)>」をクリックします。

→⑦インストールを開始します。完了すると下記画面が表示されます。



→⑧CCツールソフトのショートカットをデスクトップ画面に張り付けます。
(ドラッグアンドドロップまたは切り取り→貼り付け)

→⑨ショートカットをクリックするとCCツールソフトが起動します。

3. 一括アップロード

リモートI/Oユニットに設定済みのデータを一括してパソコンに吸い上げる操作です。
データを各種のファイルに保存し、不具合時のユニット交換に備えます。

①パソコンとリモートI/Oユニット間をRS-232-Cケーブルで接続します。

→②パソコンのCCツールソフトを起動します。



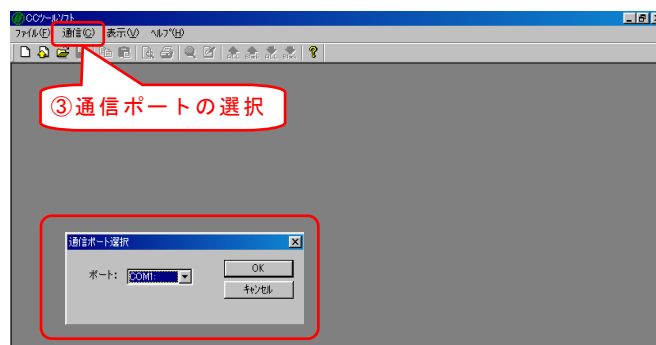
(起動用ショートカット をクリック)

→③通信ポートを選択します。

(RS-232-Cポートが1個のパソコンは設定不要)

複数のRS-232-Cポートを持つパソコンを使用するときは、RS-232-Cケーブルを接続するポートを設定します。

「メニューバー」の通信(C)をマウスでクリックし、プルダウンメニューの通信ポート設定(S)をクリックします。表示された「通信ポート選択」小画面でCOMポートを設定します。

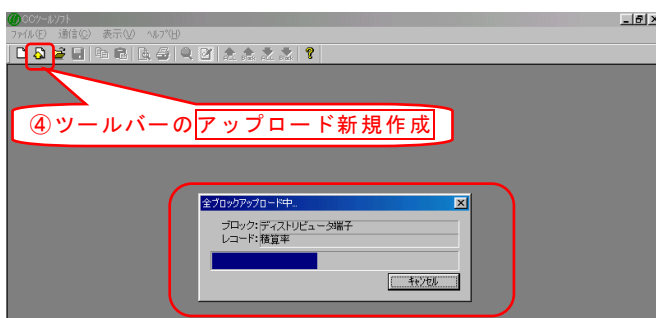


→④リモートI/Oユニットから、データを吸い上げます。

「メニューバー」の通信(C)→

ツールバーのアップロード新規作成をクリックします。

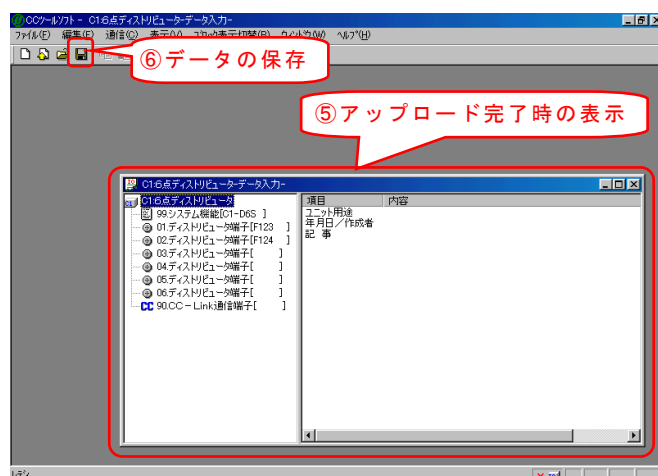
アップロード中は「全ブロックアップロード中」小画面(右図)が表示され、経過を表示します。



→⑤アップロードが完了すると右図のようにリモートI/Oユニットの機種に対応した入力画面が表示されます。

→⑥データの保存をします。

ツールバーの保存をクリックします。



→⑦「ファイル名を付けて保存」小画面が表示されます。

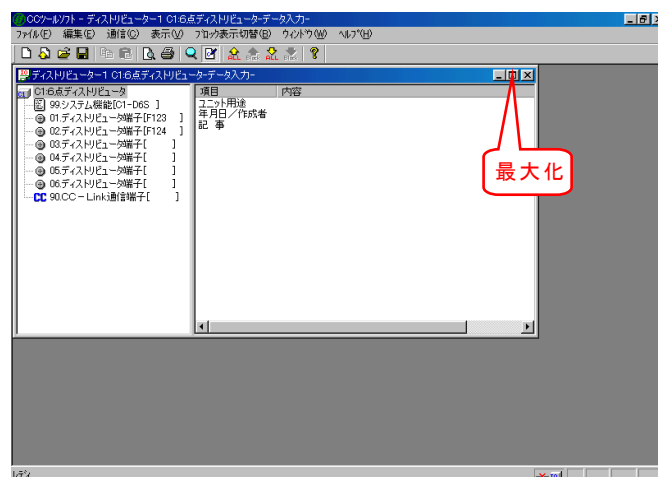
小画面の指示に従って操作し、データを保存します。

4. 一括ダウンロード


パソコンに保存してあるユニット1台分のデータをリモートI/Oユニットに書き込む操作です。
次のときに実行します。

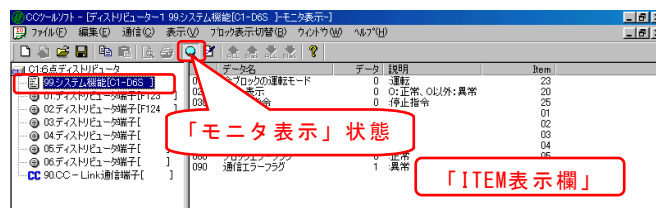
- ・パソコン単体で作成したデータをリモートI/Oユニットに書き込むとき
- ・リモートI/Oユニットを交換したとき


- ① ファイルに保存しておいたデータを開きます。
- 「メニューバー」の「ファイル」をクリックします。
 - 「開く」を選択します。
 - 保存しておいたファイルを選択します。
 - 右の画面が表示されます。
 - 最大化ボタンをクリックします。

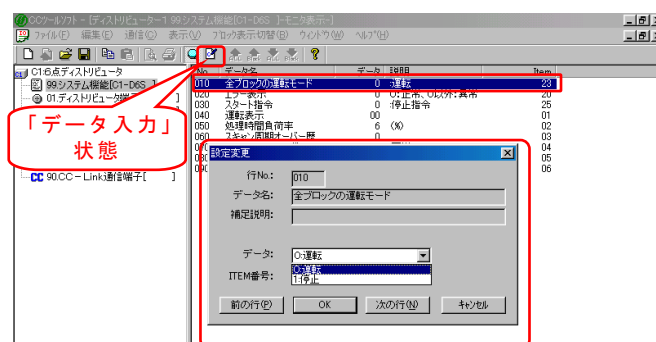


- ② リモートI/Oユニットの運転を停止させます。
(停止させないと全データのダウンロードはできません)

- ブロック表示欄の「99. システム機能 [. . .]」をクリックします。
- 「モニタ表示」選択用アイコン  をクリックし、ITEM表示欄に「モニタ表示」ブロックを、表示させます。



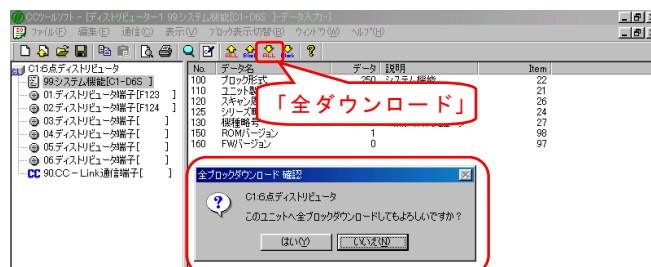
- 「ITEM表示欄」の「全ブロックの運転モード」行をダブルクリックして「設定変更」小画面を表示させます。
- 「データ：」の▼をクリックして「1：停止」選択します。
- 「OK」ボタンをクリックします。
- 「キャンセル」をクリックし、「設定変更」小画面消去します。
- 「データ入力」アイコン  をクリックし、ITEM表示欄に「データ入力」ブロックを表示させます。



→③ダウンロードを実行します。

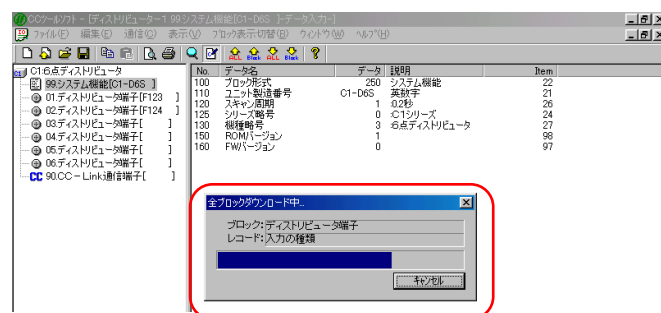
→「全ダウンロード」アイコンをクリックすると、「全ブロックダウンロード確認」小画面が表示されます。


→ ボタンをクリックします。



→ダウンロードが始まり、「全ブロックダウンロード中」小画面が表示され、ブロックのダウンロード状態を示します。

→ダウンロードが完了すると「全ブロックダウンロード中」小画面が消えます。



→再び「モニタ表示」選択用アイコンをクリックし、ITEM表示欄に「モニタ表示」ブロックを表示させます。

→「ITEM表示欄」の「全ブロックの運転モード」をダブルクリックすると「設定変更」小画面が表示されます。

→「データ:」の▼をクリックして「0: 運転」選択します。

→ ボタンをクリックします。

→をクリックして「設定変更」小画面を消去します。

→ダウンロード終了となります。

5. データ新規作成

CCツールソフトを使用してデータを新規作成し、ファイルに保存する操作です。

リモートI/Oユニットなしで操作できます。

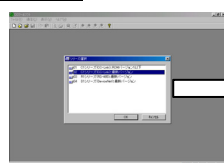
データ作成作業の省力化(コピー)機能があります。

- ・ ユニット 1 台まるごとコピー
- ・ 同一ユニット内における 1 ブロック単位のコピー
- ・ 他のユニットからの 1 ブロック単位のコピー

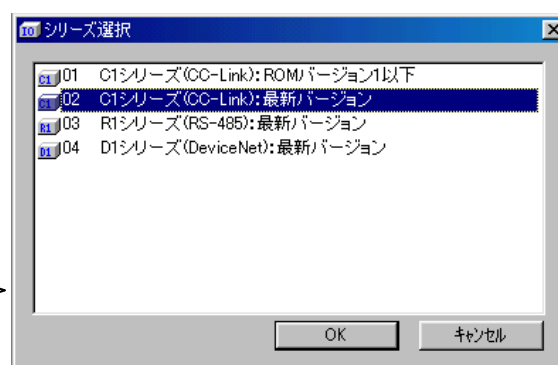
5-1. 機種の種類を選択

①ユニットのシリーズを選択します。

- 「メニューバー」の「ファイル」をクリックします。
- プルダウンメニューの「新規作成」を選択します。
- 「シリーズ選択」小画面が表示されます。
- 対象シリーズを選択して「OK」ボタンを、



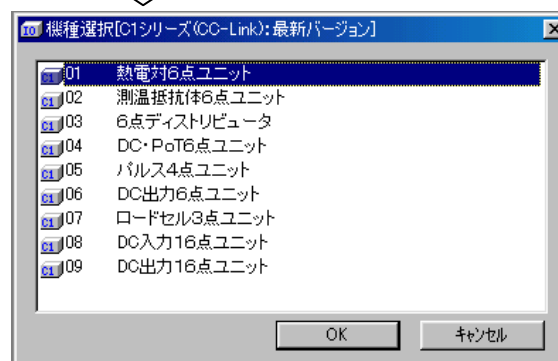
拡大



「OK」ボタンクリック後

→②機種を選択します。

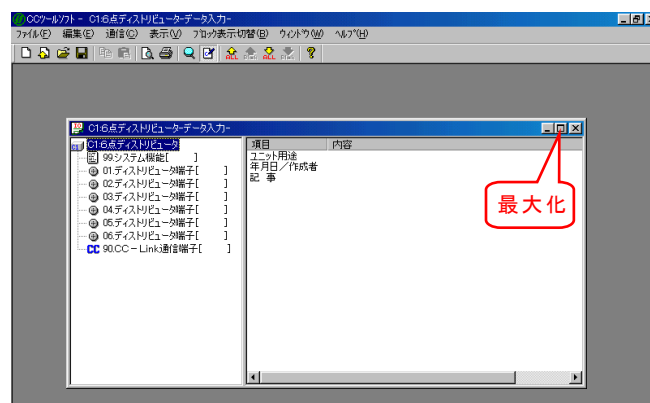
- 「機種選択」小画面が表示されます。
- 対象機種を選択して「OK」ボタンをクリックします。



→③ブロックのデータ設定画面が表示されます。

- データ入力画面が表示されます。
- (右図: C1シリーズ 6点ディストリビュータの例)

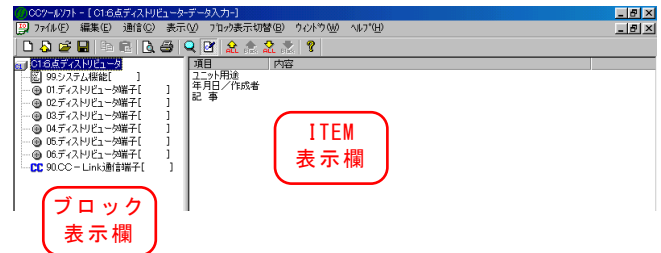
→データ入力画面を最大化します。



5-2. 「ユニット見出し」 欄の入力

① 「ユニット見出し」 入力行の選択します。

→ 「ブロック表示欄」の一行目のユニット名の書いてある行(例 C 16点ディストリビュータ)をクリックするとITEM表示欄に見だし項目を表示(右図)します。

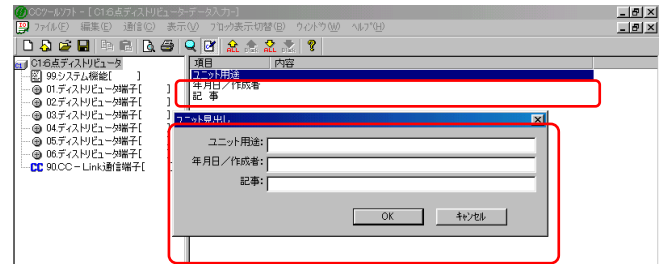


→②見出しの入力作業

→ 「ITEM表示欄」の最上行をダブルクリックすると「ユニット見出し」小画面が表示されます。

→見出しを入力し ボタンをクリックします。

→ 「ユニット見出し」小画面が消えます。



(注)ユニット見出しは、ダウンロードしてもユニットに記憶されません。パソコンのファイルにだけ保存されます。

5-3. 「99 システム機能」 ブロックの入力

① 「99 システム機能」 入力行を選択をします。

→ 「ブロック表示欄」の二行目の『99. システム機能』をクリックするとITEM表示欄に右図が表示されます。

本ブロックで、変更可能なITEMは「スキャン周期」だけです。他のITEMは表示専用です。

No.	データ名	データ	説明	Item
100	ブロック形式	250	システム機能	22
110	ユニット製造番号		英数字	21
120	スキャン周期	1	0.2秒	26
125	シリーズ番号	0	C1シリーズ	24
130	種別番号	0		27
150	ROMバージョン	0		96
160	FWバージョン	0		97

5-4. 01~06 入出力点別ブロックの入力

①入出力点を選択します。

→「ブロック表示欄」の三行目以降の入出力点別ブロック番号(右図の例では、01~06 ディストリビュータ端子)をクリックします。

→ITEM表示欄に入出力点別のITEMデータが表示(下記)されます。

No.	データ名	データ	説明	Item
140	ブロック形式	30	ディストリビュータ端子	22
150	Tag No./コメント	FIC101	英数字8文字	21
160	入力の種類	1	二線式/4~20mA	31
170	PVmaxレンジ	10000		36
180	PVminレンジ	0		37
190	スパン調整用ゲイン	10000	($\times 0.0001$)	38
200	ゼロ調整値	0		39
205	◆開平演算	0	しない	32
206	開平ドロップアウト値	100		33
210	◆PV警報演算	1	する	25
220	PV-H設定値	32767		40
230	PV-H設定値	32767		41
240	PV-L設定値	-32768		42
250	PV-L設定値	-32768		43
260	PVヒステシス	100		44
270	PVオシレート時間	0	(秒)	46
280	◆変化率演算	1	する	26
290	変化率入力max...	32000	(\searrow 秒)	47
300	変化率入力min...	0	(\searrow 秒)	48
310	変化率出力max...	32000		49
320	変化率出力min...	0		50
330	比較時間間隔	1	(秒)	54
340	変化率-H設定値	32767		51
350	変化率-L設定値	-32768		52
360	変化率ヒステシス	100		53
370	変化率オシレート...	0	(秒)	55
380	◆積算	1	する	27
390	積算率	1000	(100%/時間単位)	56
400	時間単位	2	時間	58
410	積算データ形式	0	1ワード2進数	57

ITEM表示欄の「TagNo./コメント」データを設定すると、自動的にブロック表示欄にも表示。

入出力用設定項目(●必ず設定)

運転時のゼロ/スパン調整項目

差圧式流量計のとき
◆開平演算: 「する」を選択

警報機能を使用するとき設定

変化率演算、変化率警報を使用するとき設定

積算を行うとき設定
(差圧式流量計のときは、No. 205 行の◆開平演算: 「する」に設定)

→②ITEMデータを変更します。

変更したいITEM行をダブルクリックすると「設定変更」小画面が表示されます。

(注1) 計装機能(開平、警報、変化率演算・警報、積算等)を使用しないときは、入出力設定機能(上図の例では、No. 160~180のデータ)のみ設定して下さい。

(注2) ITEMデータの意味がわかりにくときは、タイトルバーのヘルプ(H)をご覧ください。

設定変更

行No.: 170

データ名: PVmaxレンジ

補足説明: 数値範囲: -32000 ~ 32000

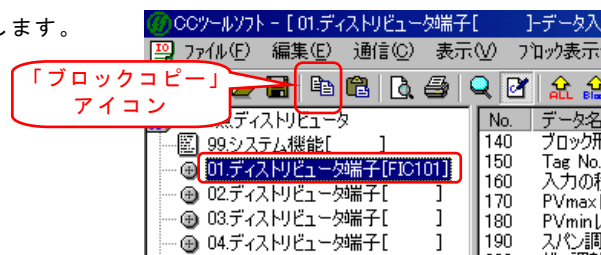
データ: 10000

ITEM番号: 36

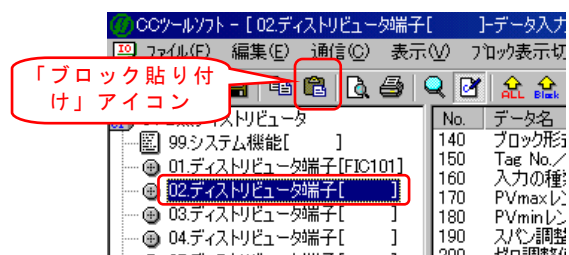
前回の行へ OK 次の行へ キャンセル

5-5. ブロック単位のデータコピー（同一ユニット内）

- ①「ブロック表示欄」のコピー元のブロックをクリック（右図）します。
- ②「ブロックコピー」アイコンをクリックします。



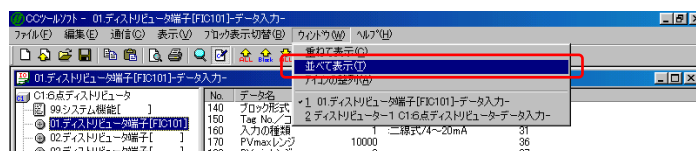
- ③「ブロック表示欄」のコピー先のブロックをクリック（右図）します。
- ④「ブロック貼り付け」アイコンをクリックすると、TagNo./コメントも含めて、コピーされます。



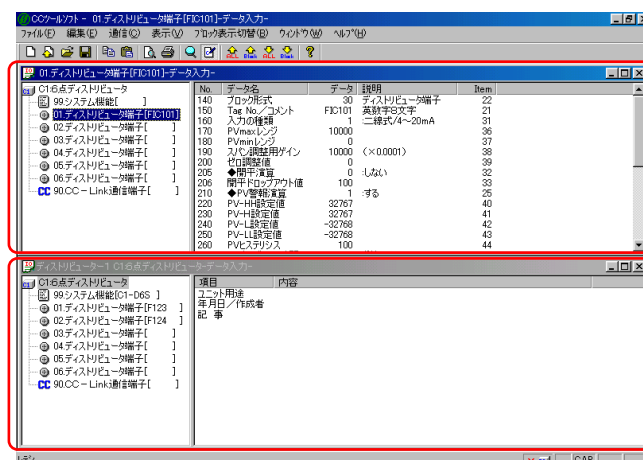
（注）同一シリーズかつ同一機種のブロックのみコピーできます。

5-6. 別のユニットからブロック単位のデータコピー

- ①保存しておいたファイルまたは新規作成ファイルを開きます。
- ②タイトルバーの「ウィンドウ(W)」をクリックし、
並べて表示(T)を選択します（右図）。



- ③複数のユニットのデータが表示されます（右図）。
この図は2個分のファイルを同時に表示していますが、3個以上開いていても、現在開いているファイルはすべて表示されます。
- ④同一ユニット内のブロックコピーと同様の手順でブロックのコピーを行います。



5-7. 通信端子の設定

通信端子ブロックは、「マスタ局との送受信データ」と「入出力用ブロック」との関連付けを行うブロックです。

データ内容は、シリーズと機種ごとに異なります。

マスタ局との送受信方法は、シリーズ別の取扱説明書をご覧ください。

データの関連づけには、ブロック番号とITEM番号の組合せを使用します。下図の例では、01. ディストリビュータ端子のPV値(ITEM番号「01」)を指定しています。これは、01. ディストリビュータ端子のPV値をマスタ局に送信する為の割付例です。

設定変更

行No.: 540

データ名: RWnn+0の送信元アドレス

補足説明: I/Oユニット→マスタ局

数値範囲: 0000 ~ 0658

データ: 0101

ITEM番号: 41 運転中はデータ変更できません

前の行(P) OK 次の行(N) キャンセル

Item

22	
21	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	
38	
39	
40	
41	
42	
43	
44	
45	
46	
47	
48	
49	
50	
51	
52	
53	
54	
55	
56	

ブロック番号

ITEM番号

530	RWnn+Fの宛先アドレス	0000	マスタ局→I/Oユニット
540	RWnn+0の送信元アドレス	0101	I/Oユニット→マスタ局
550	RWnn+1の送信元アドレス	0201	I/Oユニット→マスタ局
560	RWnn+2の送信元アドレス	0301	I/Oユニット→マスタ局
570	RWnn+3の送信元アドレス	0401	I/Oユニット→マスタ局

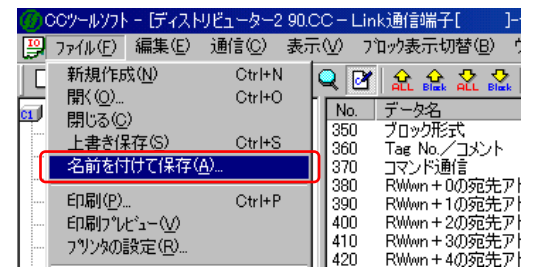
ブロック番号を設定

ITEM番号を設定

5-8. 保存

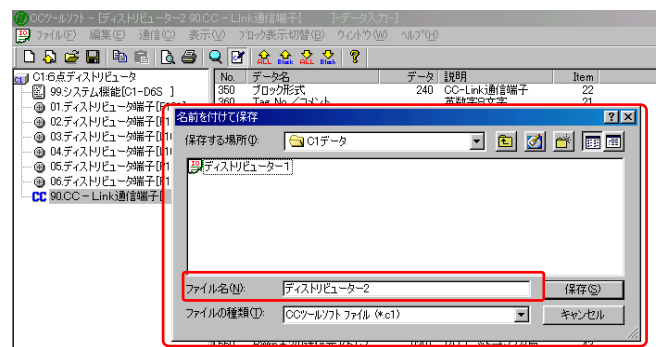
現在表示している新規作成中のデータをファイルに保存します。

- ① タイトルバーの **ファイル(F)** をクリックし、
名前を付けて保存(A) を選択します(右図)。



→ ② 「名前を付けて保存」小画面が表示されます。

→ 新しいファイル名を入力して **保存(S)** をクリックします。



5-9. ユニット1台分をまるごとコピー

現在表示しているファイルを名前を変えて保存します。
保存後、画面に表示されているデータを計測仕様に合わせてTagNo. 等を変更し、上書き保存します。
類似した設定値のユニットが多い場合は、この方法が便利です。



6. 印刷

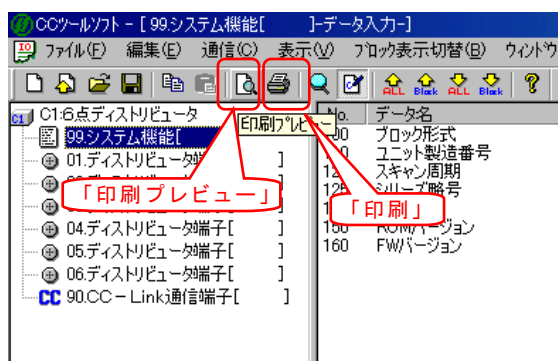
ファイルの内容を印刷する操作です。印刷プレビューも可能です。

(印刷プレビュー：プリンタに接続せずに、画面で印刷フォーマットを見る機能)

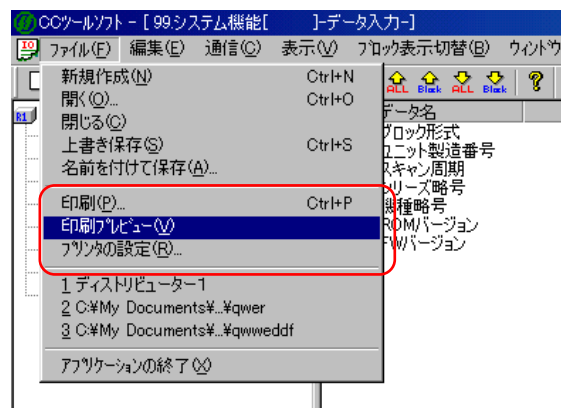
① 印刷したいファイルを開いて、パソコン上に表示します。

→② 「印刷」アイコンをクリックします。

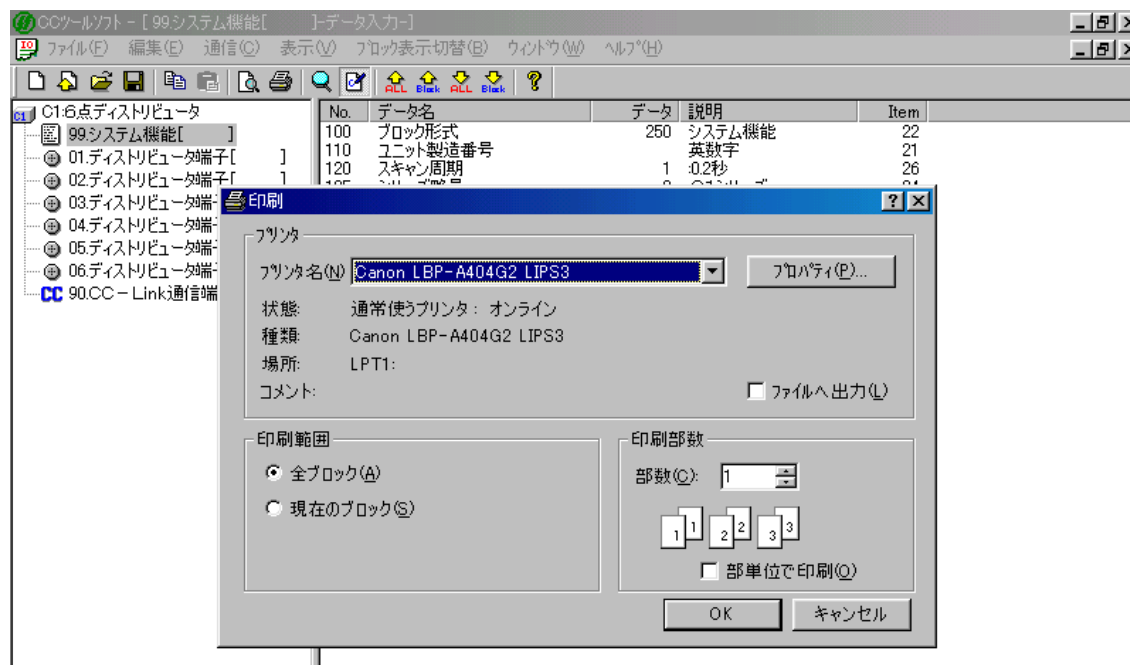
ツールバーを使用する場合



メニューバーを使用する場合



→③ 「印刷」小画面が表示されるので、必要機能を設定して **OK** ボタンをクリックします。



→④ 印刷が実行されます。

7. ユニットのデータ変更

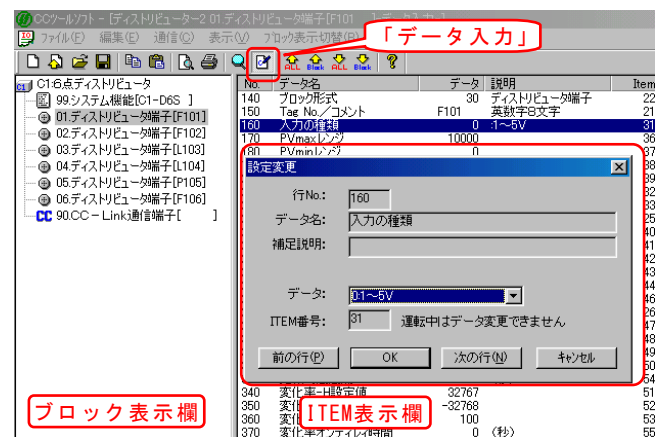
ユニットに設定済みのデータを1ブロック単位に変更する操作です。

- ・全ブロックの一括ダウンロードは、「4. 一括ダウンロード」を参照。
- ・重要なITEMデータは、運転モードを「停止」にしてからダウンロードします。重要なITEMデータは「設定変更」小画面に「運転中はデータ変更できません」というコメントが表示されます。詳細は取扱説明書をご覧ください。
- ・運転モードが「運転」中にダウンロードできるITEMは、ゼロ／スパン調整値と警報設定値です。

■変更例

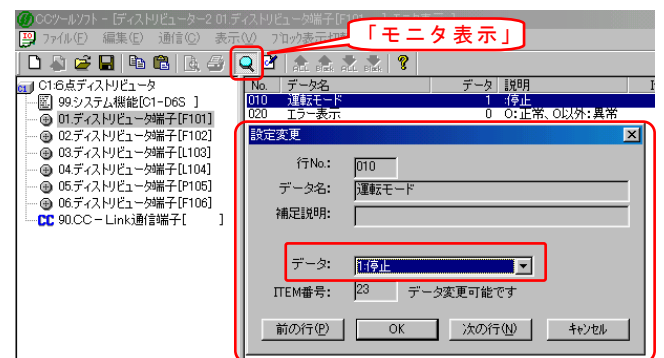
①パソコンデータを変更します。

- ブロック表示欄で、変更したいITEMのブロックを選択します。
- ITEM表示欄に「データ入力」ブロックを表示させます。
- ITEM表示欄の変更したいITEMをダブルクリックします。
- 「設定変更」小画面が表示されます。
- データを選択またはキー入力します。
- OK**をクリックします。
- 他に変更するデータがあれば、同様に操作します。



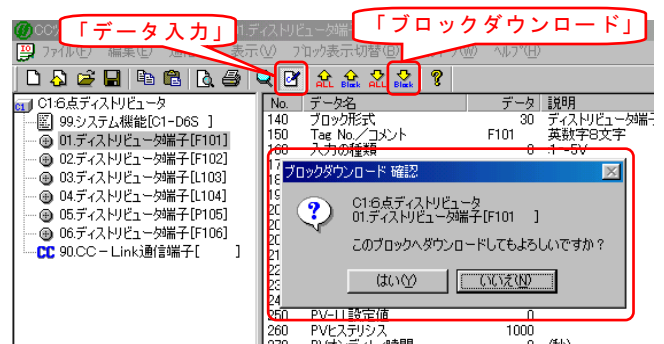
→②運転モードを「停止」に変更します。

- 「運転中はデータ変更できません」と表示されているITEMデータを変更するときは、運転モードを「停止」に変更します。表示されていないデータのときは③へ進んでください。
- ITEM表示欄に「モニタ表示」ブロックを表示させます。
- 最上行の運転モードをダブルクリックします。
- 「設定変更」小画面が表示されます。
- データ「1:停止」を選択します。
- OK**をクリックします。
- キャンセル**をクリックします。



→③データをユニットにダウンロードします。

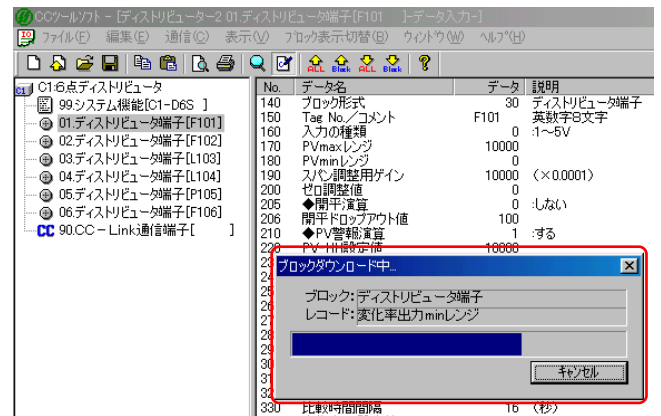
- ITEM表示欄に「データ入力」ブロックを表示させます。
- 「ブロックダウンロード」アイコンをクリックします。
- 「ダウンロード確認」小画面が表示されます。
- はい(Y)**をクリックします。



→「ブロックダウンロード中」小画面が表示されます。

→ダウンロード完了となります。

(「ブロックダウンロード中」小画面が消えます)

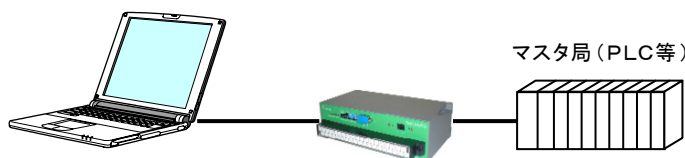


→⑤データの上書き保存します。

変更済みデータを保存して下さい。

8. 模擬入出力操作

ユニットの入力端子にアナログ入力装置を接続する代わりに、ユニットの送信データをツールソフトで設定して送信する操作ができます。また、マスタ局からユニットに送信する出力値をツールソフト読むことができます。PLCのシーケンステストを行うときに便利な機能です。



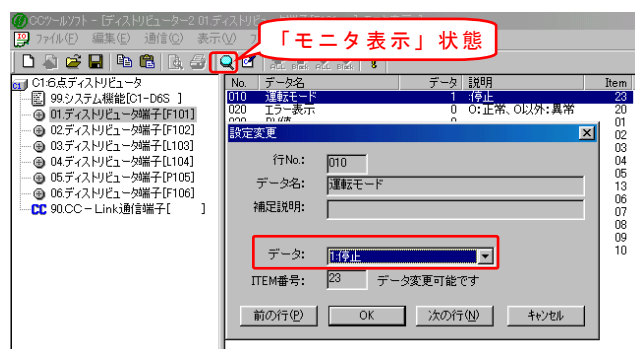
8.1. 模擬入力信号の設定

①一括アップロードを行います。

ユニットの設定データをパソコンに吸い上げます。

(3. 一括アップロード参照)

→②入力点に対応したブロックを選択し、そのブロックの運転モードを「停止」にします。



→③模擬データの設定を行います。

ITEM表示欄の運転データは、すべて実入力信号とは無関係に固定されます。

例えばPV値に‘5000’を設定する場合は、以下の手順で行います。

→ITEM表示欄のPV値をダブルクリックします。

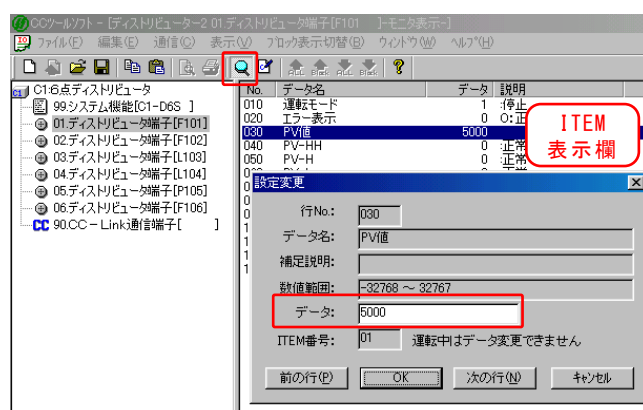
→「設定変更」小画面が表示されます。

→データ‘5000’を設定します。

→OKをクリック

→ITEM表示欄のPV値が‘5000’に書き変わります。

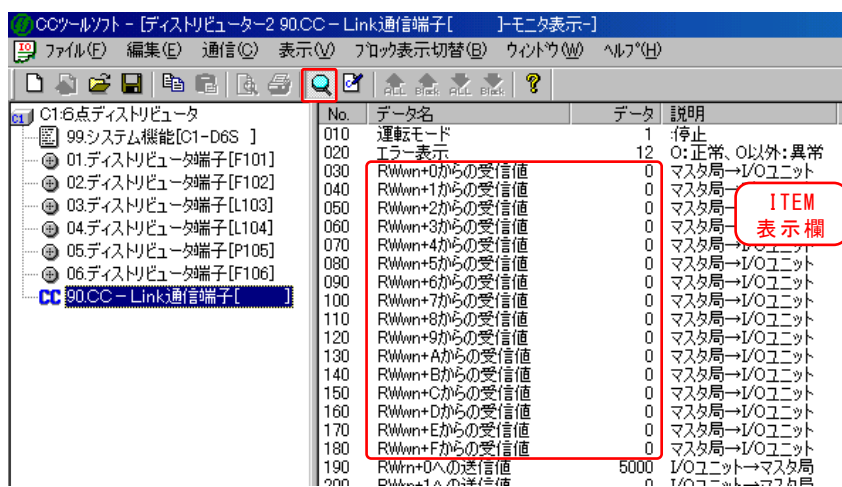
→マスタ局に送信されるデータは、‘5000’になります。



→④同様の手順で、他のデータや別のブロックのデータも任意の値を設定できます。

8.2. マスタ局からの送信信号の確認

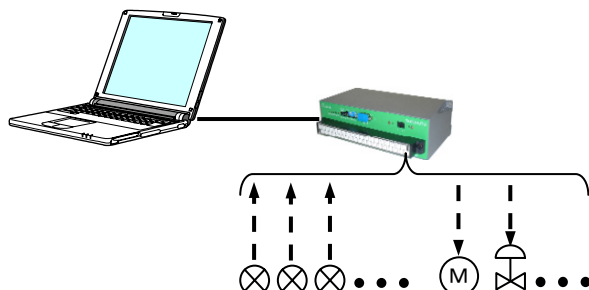
通信端子ブロックでマスタ局からの送信データを確認します。



No.	データ名	データ	説明
010	運転モード	1	停止
020	エラー表示	12	0: 正常、0以外: 異常
030	RWwn+0からの受信値	0	マスタ局→I/Oユニット
040	RWwn+1からの受信値	0	マスタ局→
050	RWwn+2からの受信値	0	マスタ局→
060	RWwn+3からの受信値	0	マスタ局→
070	RWwn+4からの受信値	0	マスタ局→
080	RWwn+5からの受信値	0	マスタ局→I/Oユニット
090	RWwn+6からの受信値	0	マスタ局→I/Oユニット
100	RWwn+7からの受信値	0	マスタ局→I/Oユニット
110	RWwn+8からの受信値	0	マスタ局→I/Oユニット
120	RWwn+9からの受信値	0	マスタ局→I/Oユニット
130	RWwn+Aからの受信値	0	マスタ局→I/Oユニット
140	RWwn+Bからの受信値	0	マスタ局→I/Oユニット
150	RWwn+Cからの受信値	0	マスタ局→I/Oユニット
160	RWwn+Dからの受信値	0	マスタ局→I/Oユニット
170	RWwn+Eからの受信値	0	マスタ局→I/Oユニット
180	RWwn+Fからの受信値	0	マスタ局→I/Oユニット
190	RWwn+0への送信値	5000	I/Oユニット→マスタ局
200	RWwn+1への送信値	0	I/Oユニット→マスタ局

9. 現場機器の調整

マスタ局なしにリモートI/Oユニット単体とツールソフトでセンサや操作端（バルブやモータ）の調整ができます。



9.1. フィールド入力信号の確認

- ①一括アップロードを行います。
ユニットの設定データをパソコンに吸い上げます。
(3. 一括アップロード参照)
- ②入力点に対応するブロックを選択し、ITEM表示欄を、「モニタ表示」ブロックに切り換えます。
- ③他の入力点のデータを読むときは、対応するブロックに切り換えます。

CCツールソフト - [ディストリビュータ-2 01.ディストリビュータ端子[F101] -]モニタ表示-

ファイル(F) 編集(E) 通信(C) 表示(V) ブロック表示切替(B) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

C1-6点ディストリビュータ

99.システム機能[C1-D6S]

01.ディストリビュータ端子[F101]

02.ディストリビュータ端子[F102]

03.ディストリビュータ端子[L103]

04.ディストリビュータ端子[L104]

05.ディストリビュータ端子[P105]

06.ディストリビュータ端子[F106]

90.CC-Link通信端子[]

No.	データ名	データ	説明
010	運転モード	0	運転
020	エラー表示	0	0:正常
030	PV値	8227	
040	PV-HH	0	正常
050	PV-H	1	異常
060	PV-L	0	正常
070	PV-LL	0	正常
080	入力異常	0	正常
090	変化率値	0	正常
100	変化率-H	0	正常
110	変化率-L	0	正常
120	積算値(上位)	2501	
130	積算値(下位)	9551	

ITEM表示欄

9.2. フィールド出力信号の設定

D C出力6点ユニットのアナログ出力値を設定します。

- ①一括アップロードを行います。
ユニットの設定データをパソコンに吸い上げます。(3. 一括アップロード参照)
- ②通信端子を選択しITEM表示欄を「モニタ表示」ブロックに切り換えます。
- ③運転モードを「停止」にします。
- ④出力点に対応するITEM行をダブルクリックします。
- ⑤「設定変更」小画面で出力したい数値を設定すると、設定された値のアナログ信号が出力されます。

CCツールソフト - [90.CC-Link通信端子[] -]モニタ表示-

ファイル(F) 編集(E) 通信(C) 表示(V) ブロック表示切替(B) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

C1-DC出力6点ユニット

99.システム機能[]

01.DC出力端子[]

02.DC出力端子[]

03.DC出力端子[]

04.DC出力端子[]

05.DC出力端子[]

06.DC出力端子[]

90.CC-Link通信端子[]

No.	データ名	データ	説明	Item
010	運転モード	1	停止	23
020	エラー表示	12	0:正常, 0以外:異常	20
030	RWwin+1からの受信値	0	マスタ局→I/Oユニット	57
040	RWwin+2からの受信値	0	マスタ局→I/Oユニット	58
050	RWwin+3からの受信値	0	マスタ局→I/Oユニット	59
060	RWwin+4からの受信値	0	マスタ局→I/Oユニット	60
070	RWwin+5からの受信値	0	マスタ局→I/Oユニット	61
080	RWwin+6からの受信値	0	マスタ局→I/Oユニット	62
090	RWwin+7からの受信値	0	マスタ局→I/Oユニット	63
100	RWwin+8からの受信値	0	マスタ局→I/Oユニット	64
110	RWwin+9からの受信値	0	マスタ局→I/Oユニット	65
120	RWwin+Aからの受信値	0	マスタ局→I/Oユニット	66
130	RWwin+Bからの受信値	0	マスタ局→I/Oユニット	67
140	RWwin+Cからの受信値	0	マスタ局→I/Oユニット	68
150	RWwin+Dからの受信値	0	マスタ局→I/Oユニット	69
160	RWwin+Eからの受信値	0	マスタ局→I/Oユニット	70
170	RWwin+Fからの受信値	0	マスタ局→I/Oユニット	71
180	RWwin+Gからの受信値	0	マスタ局→I/Oユニット	72
190	RWwin+Hへの送信値	8229	I/Oユニット→マスタ局	73